

# 問題

問

1

正解

完璧

直前  
CHECK

アクセス権限を管理しているシステムの利用者IDリストから、退職による権限喪失者が削除されていることを検証する手続として、最も適切なものはどれか。

- ア アクセス権限削除申請書の全件について、利用者IDリストから削除されていることを確認する。
- イ 最新の利用者IDリストの全件について、対応するアクセス権限削除申請書が存在しないことを確認する。
- ウ 人事発令簿の退職者の全件について、利用者IDリストから削除されていることを確認する。
- エ 利用者IDリストの更新履歴の全件について、対応するアクセス権限削除申請書の存在を確認する。

問

2

正解

完璧

直前  
CHECK

データベースのインテグリティの維持に関する監査ポイントはどれか。

- ア データベースのデータに不具合が発生した場合の障害回復手段が組み込まれているかどうか。
- イ データベースの利用効率が適切であるかどうか。
- ウ データ領域の使用領域と拡張用領域のバランスが適切であるかどうか。
- エ 利用者の要求に応じたレスポンスタイムが確保できているかどうか。



## 問1

## ウ

本問は退職による権限喪失者が削除されていることを検証することにあるため、削除の検証方法が妥当であるものが解答となる。

重要なポイントは、一般的に削除申請書を提出しないケースが多いことである。利用者は使いたいときには申請書を必ず提出する。これは、申請しなければ使えないからである。しかし退職による権限喪失の場合、削除しなくてもその削除対象者は退職により組織内からいなくなるため、申請書を提出しない場合が多い。

ア、イ、ウ：削除申請書をチェックしても、申請書が提出されていない場合があるため、誤りである。

イ：申請書と関係なく、人事情報から利用者IDリストをチェックするため、正しいといえる。



## 問2

## ア

セキュリティの3要素は、**機密性 (Confidentiality)**、**完全性 (Integrity)**、**可用性 (Availability)** である。

**機密性**：許可された者のみが情報にアクセスできること。

**完全性**：情報が正確であり完全であること。

**可用性**：必要なときに情報にアクセスできること。

ア：データベースに障害が発生した場合における正確なデータへの回復手段は、完全性に関係する。

イ：利用効率、性能に関係する。

ウ：データ領域の使用領域と拡張領域のバランスは、サイジングに関係する。

エ：レスポンスタイムは、可用性に関係する。

# 問題

問

3

正解

完璧



直前  
CHECK

“システム監査基準”の定める予備調査に関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア 個別計画書を作成するために行う予備的な調査である。
- イ 本調査に先立って、監査対象業務の実態を把握するために行う調査である。
- ウ 本調査に先立って、被監査部門と監査計画を調整するために行う調査である。
- エ 本調査を補完する目的で、本調査と並行して行う調査である。

問

4

正解

完璧



直前  
CHECK

情報システムの可用性監査において、システム障害報告書に基づき再発防止策の効果をレビューする手続きとして、適切なものはどれか。

- ア 障害原因と障害発生時の停止時間の記載の有無の確認
- イ 障害報告書の承認体制と承認状況の確認
- ウ 前期及び当期の回復許容時間の予測値の比較
- エ 前期及び当期の障害原因別の障害発生件数と停止時間の比較

**問3****イ**

監査の流れは、実施準備、基本計画書作成、個別計画書作成、予備調査実施、監査手続書作成、本調査実施、監査調書作成、監査意見・判断明確化・形成、評価・結論検討、監査報告書案作成という流れになる。

ア：個別計画に基づいて予備調査を行う。

イ：予備調査は、監査対象の実態を把握するために行う。

ウ：予備調査は監査対象の実態を把握するために行うのであって、被監査部門と監査計画を調整するために行うのではない。

エ：予備調査の後、本調査を行う。

**問4****工**

再発防止策とは、システム障害が発生した後に、再度同様の障害が発生しないように何らかの対応を行うことである。再発防止策を実施することで、障害発生件数の減少や停止時間の短縮を実現することができる。

ア：再発防止策の効果のレビューにあたっては、障害原因、障害発生時の停止時間のほかに、障害発生件数が必要となる。

イ：障害報告書の承認体制・状況からは、再発防止策の効果は判断できない。

ウ：回復許容時間の予測値は、システム障害発生後のことであり、再発防止策とは直接関係ない。

エ：再発防止策効果をレビューするためには、再発防止策策定前後において、障害原因ごとに障害発生件数、中断・修復時間等を比較する。

# 問題

問

5

正解

完璧

直前  
CHECK

“情報セキュリティ監査制度”における保証型監査と助言型監査に関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア 助言型監査とは、監査上の判断尺度として情報セキュリティ管理基準を利用し、情報セキュリティ上の問題点の指摘と改善提言は監査人の自由裁量で行う監査のことである。
- イ 助言型監査とは、監査対象の情報セキュリティに関するマネジメントやコントロールの適切な運用を目的として、情報セキュリティ上の問題点の検出と改善を命令する監査のことである。
- ウ 保証型監査とは、監査手続を実施した限りにおいて、監査対象の情報セキュリティに関するマネジメントやコントロールが適切であることを保証する監査のことである。
- エ 保証型監査とは、監査の結果としてインシデントが発生しないことをステークホルダに対して保証する監査のことである。

問

6

正解

完璧

直前  
CHECK

情報戦略についてのシステム監査を行う場合、優先して監査すべき事項はどれか。

- ア 経営戦略との整合性を考慮しているか。
- イ 現行の情報戦略を反映しているか。
- ウ 最新の情報技術を取り入れているか。
- エ 情報戦略実現のための解決目標を設定しているか。

**問5****ウ**

**保証型監査：**監査対象たる情報セキュリティのマネジメントまたはコントロールが、監査手続きを実施した限りにおいて適切である旨（または不適切である旨）を監査意見として表明する形態の監査。

**助言型監査：**情報セキュリティのマネジメントまたはコントロールの改善を目的として、監査対象の情報セキュリティ対策上の欠陥及び懸念事項等の問題点を検出し、必要に応じて当該検出事項に対応した改善提言を監査意見として表明する形態の監査（「情報セキュリティ監査基準 実施基準ガイドライン」）。

**問6****ア**

**情報戦略は経営戦略（プランニング）の一部である。**各機能戦略においては、機能内だけにとらわれることなく、全社的整合性を保って戦略立案することが重要である。

情報戦略は経営目標達成のため、企業における情報資源を活用する方針である。情報資源としては、データ、情報システム基盤（ハード、ソフト、ネットワーク等）、人的基盤（情報リテラシ）がある。

# 問題

問 7

正解

完璧

直前  
CHECK

システム監査技法の一つである並行シミュレーション法はどれか。

- ア 監査対象プログラムのある部分の機能を特定し、本番データと異なるデータを使って処理論理の正確性を確かめる方法
- イ 監査人が用意した検証用プログラムと監査対象プログラムに同一のデータを入力して、両者の実行結果を比較する方法
- ウ 正規の適用業務処理の中で、架空のテストデータを用い、システム機能の信頼性や効率性を検証する方法
- エ トランザクション処理を継続的に監視するために、監査人が用意した検証用プログラムをシステムに組み込んで本番データを処理する方法

問 8

正解

完璧

直前  
CHECK

金融庁の財務報告に係る内部統制報告制度におけるITに係る全般統制に該当するのはどれか。

- ア エラーの修正と再処理
- イ 外部委託に関する契約の管理
- ウ 業務別トランザクションデータの維持管理
- エ 入力情報の完全性、正確性、正当性などを確保する統制

問 9

正解

完璧

直前  
CHECK

システム監査に関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア 公認会計士が任意の業務としてシステム監査を実施する場合がある。
- イ システム監査人は、公認会計士が兼務することが望ましい。
- ウ システム監査は、公認会計士による監査の一環として必ず実施されるものである。
- エ システム監査は内部監査であるので、公認会計士が実施することはない。



## 問7

イ

ア：本番データと異なるデータを使ってテストしても比較対象が無いので、並行シミュレーション法ではない。

イ：並行シミュレーション法とは、システム監査人が用意した検証用プログラムと監査対象プログラムに同一のデータを入力して、両者の実行結果を比較する方法である。

ウ：架空テストデータを使ってテストしても比較対象が無いので、並行シミュレーション法ではない。

エ：並行シミュレーション法は、継続的監視のための技法ではない。



## 問8

イ

内部統制において、ITの利用には**全般統制**と**業務処理統制**の二つがある。

**全般統制**：ITを利用した業務処理統制が有効に機能する環境を保障する間接的な統制。通常、ハードウェアやネットワークの運用管理、ソフトウェアの開発、変更、運用並びに保守、アクセス、セキュリティ及びアプリケーションシステムの取得、開発並びに保守に対する統制を含むものである。

**業務処理統制**：ITを利用した業務処理統制とは、個々のアプリケーションシステムにおいて、承認された取引がすべて正確に処理され、記録されることを確保する、コンピュータ・プログラムに組み込まれた統制をいう。

ア、ウ、エ：業務処理統制を表す。

イ：全般統制を表す。



## 問9

ア

ア：企業が**大会社**（資本金5億円以上、又は、負債200億円以上）の場合、**監査役監査**のほかに**公認会計士監査**（会計監査）も受ける必要がある。会計処理等に関わる業務について情報処理システムを利用している場合は、それについても監査を行うこととなる。

イ、ウ：システム監査人は、情報システム全般の**信頼性・安全性・効率性**について監査を行う。公認会計士は会計主体の監査を行う。

エ：会計処理等に関わる業務について情報処理システムを利用している場合は、公認会計士監査において、それについても監査を行うこととなる。

# 問題

問 10

正解

完璧

直前  
CHECK

内部統制として効果的な職務の分離の説明はどれか。

- ア 開発部門のプログラマーが運用部門のオペレータを兼務しない。
- イ 購買管理で購入物品の検品と検品確認入力を同じ担当者が行わない。
- ウ 資材管理で資材の搬入確認と搬入確認入力を兼務しない。
- エ 電子送金システムでシステムの始動と送金操作を同じ担当者が行わない。

問 11

正解

完璧

直前  
CHECK

システムの障害対策に関する記述のうち、不適切なものはどれか。

- ア サーバのディスク障害によってデータが破壊された場合を想定し、複数のサーバ間でデータの複製をもつ。
- イ 停電や落雷によるハードウェアの故障の範囲を限定するために、LAN配線用サーージ保護器を設置し、さらにネットワークを幾つかのセグメントに分割する。
- ウ ネットワーク管理ソフトウェアのバグによるシステムの停止を回避するために、複数のCPUを搭載したサーバを導入する。
- エ 不注意によるケーブルの切断によってネットワークが利用できなくなる範囲を最小限にとどめるために、スター型トポロジを採用する。

**問10****ア**

内部統制における**職務の分離**とは、兼務することによって統制が機能しなくなる職務を分けることである。たとえば、開発業務と運用を兼務すると不正なプログラムを導入するタイミングが生じ、統制が機能しなくなる可能性がある。

イ、ウ：物品や資材を確認し、それらを入力する担当者が同一では、職務分離とは言えない。

エ：システムの始動と送金操作は、内部統制とは直接関連しない。

**問11****ウ**

通常の問題では正しいものを選択するが、本問では不適切なものを選択する。したがって、注意が必要である。

ネットワーク管理ソフトのバグによる停止は、複数のCPUを装備したサーバとは関連がない。複数CPUを装備した場合は、CPUの故障によるサーバの停止を防ぐだけである。ソフトのバグによる停止を想定するのであれば、他の管理ソフトを用意するか、管理ソフトの作業を人間でカバーするための作業手順書、確認手順書を用意するのがよい。

# 問題

問 12

正解

完璧

直前  
CHECK

ITサービスマネジメントを導入する際の手順はどれか。

- a 継続的改善方法の検討
- b 現状の把握
- c ビジョンの明確化
- d 目標達成状況の把握方法の検討
- e 目標達成方法の検討
- f 目標の設定

- ア b→c→e→f→d→a
- イ b→f→c→a→d→e
- ウ c→b→f→e→d→a
- エ c→f→b→a→d→e

問 13

正解

完璧

直前  
CHECK

販売管理システム開発を受注したA社が、不足する開発要員（プログラマ）をB社からの派遣によって補うことにした。派遣先であるA社の行為のうち、労働者派遣法に照らして適切なものはどれか。

- ア システム開発期間が長期になるので、B社から派遣されるプログラマの派遣期間を3年とする契約を結ぶ。
- イ 派遣期間中は作業負担がかかることが予想されるので、B社に対し20代男性の派遣を依頼する。
- ウ 派遣されるプログラマ候補者の業務経歴書を提出させ、書類選考によって面接の対象となる候補者を絞り込む。
- エ 労務管理実務に詳しい担当者がいないので、責任者を置かず派遣社員からの苦情処理をB社に依頼する。

平成21年度春期試験  
午前II

**問 12****ウ**

ITサービスマネジメントとは、組織が効率的に管理されたITサービスを運営維持するための枠組み（フレームワーク）である。

**ITサービスマネジメント導入の手順**

1	ビジョンの明確化
2	現状の把握
3	目標の設定
4	目標達成方法の検討
5	目標達成状況の把握方法の検討
6	継続的改善方法の検討

本問ではa～fまでの手順を解答しなければならないが、選択肢をよく確認することで選択範囲を狭めることができる。

はじめにbとcを比較することで、解答を（ア、イ）、（ウ、エ）のいずれか二つに絞ることができる。あとは、dの後に続くのが、aもしくはeのどちらであるかを確認できれば解答となる。実質的に、2回正しい選択肢を確認できれば良い。

**問 13****ア**

労働者派遣法では、ソフトウェア開発等の政令で定める業務（いわゆる26業務）の派遣期間について、平成16年3月1日より「制限無し（従来3年）」と定めている。

ア：プログラムの3年契約は問題ない。

イ、ウ：労働者派遣法第二十六条に、派遣労働者を特定することを目的とする行為をしないよう努めなければならないと定められている。指名や面接は禁止行為である。

エ：労働者派遣法第四十一条に、派遣先責任者を選任しなければならないと定められている。

# 問題

問 14

正解

完璧

直前  
CHECK

個人情報保護法で保護される個人情報の条件はどれか。

- ア 企業が管理している顧客に関する情報に限られる。
- イ 個人が秘密にしているプライバシーに関する情報に限られる。
- ウ 生存している個人に関する情報に限られる。
- エ 日本国籍の個人に関する情報に限られる。

問 15

正解

完璧

直前  
CHECK

表は、CSR (Corporate Social Responsibility) をキャロルによる四つの責任分野に分類し、それぞれの企業活動例を示している。表中のcに入るものはどれか。

責任分野	企業活動例
a	法人税の納付
b	コンプライアンスの徹底
c	環境会計の導入
d	文化・芸術支援活動

- ア 経済的責任
- イ 社会貢献責任
- ウ 法的責任
- エ 倫理的責任

**問 14****ウ**

個人情報保護法は個人情報の保護を目的とした法律であり、個人情報の扱いの義務や対応、罰則について定めたものである。個人情報取扱事業者には、「利用目的による制限」、「適正な取得」、「安全管理措置」、「第三者提供の制限」、「開示・訂正・利用停止の受付」等の義務がある。

ア：顧客に関する個人情報だけでなく、従業員に関する個人情報についても対象となる。

イ：個人情報保護法では、氏名、生年月日その他記述により特定の個人を識別できる個人情報を対象としている。

ウ：個人情報保護法の第二条に、「個人情報とは生存する個人に関する情報」と記述されている。

エ：日本国籍の個人に関する情報に限られると規定されていない。

**問 15****エ**

CSR (Corporate Social Responsibility) とは、利益追求のみでなく、経済的責任や社会貢献活動等をもって社会に経済的価値を提供し、不祥事を防ぐ取り組みを行いながら、企業が社会貢献活動を行っていくことである。

責任分野	企業活動例
a 経済的責任	法人税の納付
b 法的責任	コンプライアンスの徹底
c 倫理的責任	環境会計の導入
d 社会貢献責任	文化・芸術支援活動

# 問題

問 16

正解

完璧

直前  
CHECK

連結売上高総利益率は何%か。ここで、B社はA社の100%子会社で、仕入はすべて親会社からであり、売上はすべて親会社以外である。また、期首、期末とも在庫はない。

A社損益計算書		B社損益計算書	
売上高	4,000	売上高	1,000
子会社売上高	800	売上原価	800
売上原価	3,000	売上総利益	200
売上総利益	1,800		

ア 34      イ 38      ウ 40      エ 56

問 17

正解

完璧

直前  
CHECK

“学生”表と“学部”表に対し次のSQL文を実行した結果として、正しいものはどれか。

```
SELECT 氏名 FROM 学生,学部
WHERE 所属 = 学部名 AND 学部.住所 = '新宿'
```

学生

氏名	所属	住所
合田知子	理	新宿
青木俊介	工	渋谷
川内聡	人文	渋谷
坂口祐子	経済	新宿

学部

学部名	住所
理	新宿
工	新宿
人文	渋谷
経済	渋谷

ア

氏名
合田知子

イ

氏名
合田知子
青木俊介

ウ

氏名
合田知子
坂口祐子

エ

氏名
合田知子
青木俊介
坂口祐子

**問 16****ウ**

B社は子会社であるため、連結して計算する。

$$\text{売上高利益率} = \text{利益} \div \text{売上高} \times 100$$

$$= ((1,800 + 200) \div (4,000 + 1,000)) \times 100 = 40$$

**問 17****イ**

SELECT 氏名 FROM 学生,学部

③

WHERE 所属 = 学部名 AND 学部.住所 = '新宿'

②

①

- ① 表「学部」において、住所が「新宿」となっている学部名として「理，工」が抽出される。
- ② 表「学生」において、①により抽出された学部名「理，工」と一致する所属をもつ「合田知子，理，新宿」「青木俊介，工，渋谷」を抽出する。
- ③ ②で抽出された行から、「氏名」を選択する。

# 問題

問 18

正解

完璧

直前  
CHECK

TCP, UDPのポート番号を識別し, プライベートIPアドレスとグローバルIPアドレスとの対応関係を管理することによって, プライベートIPアドレスを使用するLANの複数の端末が, 一つのグローバルIPアドレスを共有してインターネットにアクセスする仕組みはどれか.

- ア IPスプーフィング                      イ IPマルチキャスト  
ウ NAPT                                      エ NTP3

問 19

正解

完璧

直前  
CHECK

インターネットを利用したVPNの説明として, 適切なものはどれか.

- ア 暗号化技術などを利用して, インターネットを仮想的な専用ネットワークとして安全に利用する.  
イ インターネットによって安価な国際電話網を実現するために利用される.  
ウ デジタル通信ネットワークISDNを使って, 組織内のネットワークとインターネットを接続するために利用される.  
エ 同一企業グループに属する複数の企業のイントラネットを, インターネットを用いて接続し, 公開可能な情報だけをやり取りする.

**問 18****ウ**

グローバル IP アドレスからプライベート IP アドレスに変換するための機能には、**NAT** (Network Address Translation) と **NAPT** (Network Address Port Translation) がある。NAPT は IP マスカレードともよばれ、アドレス変換時にポート番号も用いる。

**IP スプーフィング**：攻撃者が送信元を隠ぺいするために、送信元 IP アドレスを偽装したパケットを相手に送りつけることである。

**IP マルチキャスト**：1 対多の通信を行う際に利用する通信手段である。アドレスクラスは D (224.0.0.0 ~ 239.255.255.255) を利用する。

**NTP** (Network Time Protocol)：PC のもつリアルタイムクロックの時間を合わせるプロトコル。通信時間による誤差を修正する。NTP3 は NTP バージョン 3 と呼ばれ、一般的に利用されている NTP である。他にも、最新の NTP バージョン 4 がある。

**問 19****ア**

**VPN** (Virtual Private Network) はトンネリング、暗号化などの技術を使って、仮想的 (Virtual) な専用ネットワークを構築し、それを利用する方式である。インターネットを利用することにより、低コストで専用ネットワークを運用できることがメリットである。

# 問題

問 20

正解

完璧



直前  
CHECK

DNS キャッシュポイズニングに分類される攻撃内容はどれか。

- ア DNSサーバのソフトウェアのバージョン情報を入手して、DNSサーバのセキュリティホールを特定する。
- イ PCが参照するDNSサーバに誤ったドメイン管理情報を注入して、偽装されたWebサーバにPCの利用者を誘導する。
- ウ 攻撃対象のサービスを妨害するために、攻撃者がDNSサーバを踏み台に利用して再帰的な問合せを大量に行う。
- エ 内部情報を入手するために、DNSサーバが保存するゾーン情報をまとめて転送させる。

問 21

正解

完璧



直前  
CHECK

情報システムのリスク分析に関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア リスクには、投機的リスクと純粹リスクとがある。情報セキュリティのためのリスク分析で対象とするのは、投機的リスクである。
- イ リスクの予想損失額は、損害予防のために投入されるコスト、復旧に要するコスト、及びほかの手段で業務を継続するための代替コストの合計で表される。
- ウ リスク分析では、現実が発生すれば損失をもたらすリスクが、情報システムのどこに、どのように潜在しているかを識別し、その影響の大きさを測定する。
- エ リスクを金額で測定するリスク評価額は、損害が現実のものになった場合の1回当たりの平均予想損失額で表される。

**問20****イ**

DNSキャッシュポイズニングとは、URLなどのDNSを利用したIPアドレス検索を行う際に、正しいIPアドレスを検索できないようにする攻撃手法である。攻撃者は、利用者のIPアドレス検索に対して不正なIPアドレスを返すよう、DNSのキャッシュ（一定期間IPアドレス情報を記憶している仕組み）を汚染する。

ア：ソフトウェアのセキュリティホールを攻撃することは、キャッシュポイズニングではない。

イ：不正なIPアドレス情報から偽装されたWebサイトへの誘導は、キャッシュポイズニングによる攻撃である。

ウ：再帰的な大量の問合せは、IPスプーフィングによる攻撃である。

エ：ゾーン情報（DNSのレコード情報の一覧）の転送は、キャッシュに関連しない。

**問21****ウ**

リスク分析とは、企業や対象となる情報システムの機密性、保全性、可用性を阻害する様々なリスクを洗い出し、その影響度を分析することである。脅威と脆弱性が結びつくと、リスクが顕在化し、損失が発生する。

ア：情報システムにおけるリスクマネジメントでは、主に純粹リスクを対象として取り扱う。

イ：リスクの予想損失額は、セキュリティ侵害が発生してから元の状態に戻るまでにかかる費用となる。また、損害のために失ったビジネスチャンスや損害そのもののコストを含める必要がある。

エ：リスク評価額は、「1回当たりの予想損失額×発生頻度(回数/年)」で表せる。

# 問題

問 22

正解

完璧

直前  
CHECK

機能要件と非機能要件のうち、機能要件を満たすために行う設計はどれか。

- ア 業務システムを開発するための開発環境を設計する。
- イ 業務の緊急度を分析して障害発生時の復旧時間を明確にする。
- ウ 業務を構成する要素間のデータの流れを明確にする。
- エ 部門業務を効率よく処理するための最適なサーバ配置を設計する。

問 23

正解

完璧

直前  
CHECK

ハードウェアの保守点検及び修理作業を実施するときに、運用管理者が実施すべき、事前又は事後の確認に関する説明のうち、適切なものはどれか。

- ア システムが自動的に回復処置を行った障害については、障害前後のエラーログが残っているので、障害原因や対応処置の報告ではなく、ログの分析結果を確認する。
- イ 定期保守時の点検項目は事前に分かっているので、事前と事後の確認は省略できるが、作業の開始と終了については、保守作業者に確認する。
- ウ 予防保守を遠隔保守方式で行う場合、遠隔地のシステムへの影響は出ないので、作業内容などの事前確認は行わず、事後に作業実施結果を確認する。
- エ 臨時保守の場合、事前に保守作業者が障害の発生状況を確認したことを確認し、事後に障害原因や作業実施結果を確認する。

**問22****ウ**

**機能要件**：業務システムを開発する上で、業務システムで必要とされる機能を示すもの。

**非機能要件**：機能要件以外のすべてを指す。たとえば、セキュリティ対応や可用性など、

直接業務とは関連しないが要件としては定義する必要があるもの。

ア、イ、エ：非機能要件を表す。

ウ：機能要件を表す。

**問23****エ**

保守作業には大きく分けて、**定期保守**と**臨時保守**の二つがある。定期保守は、決まった間隔でシステムに異常の兆候は見られないかを確認するものである。点検事項もあらかじめ決められた項目について確認する。臨時保守は、定期保守でなんらかの不具合を見つけた場合や、保守以外で不具合を見つけた場合に実施する作業である。作業の着手前に状況確認と連絡を行い、処置後に原因の報告を実施する。

ア：システムが自動回復処置をとった障害は、事前に確認することはできない。

イ：事前に点検項目が決まっている定期保守でも、事後の確認は必要である。

ウ：予防保守は、遠隔保守であるかどうかに関わらず、事前報告を行う必要がある。

# 問題

問 24

正解

完璧

直前  
CHECK

ほかの技法では答えが得られにくい、未来予想のような問題に多く用いられ、(1)～(3)の手順に従って行われる予測技法はどれか。

- (1) 複数の専門家を回答者として選定する。
- (2) 質問に対する回答結果をフィードバックし、再度質問を行う。
- (3) 回答結果を統計的に処理し、確率分布とともに回答結果を示す。

ア クロスセクション法

イ シナリオライティング法

ウ 親和図法

エ デルファイ法

問 25

正解

完璧

直前  
CHECK

バランススコアカードを説明したものはどれか。

- ア 外部環境と内部環境の視点から、自社にとっての事業機会を導き出す手法
- イ 計画、行動、評価、修正のサイクルで、戦略実行の管理を行うフレームワーク
- ウ 財務、顧客、内部プロセス、成長と学習の視点から、経営戦略を支援する手法
- エ ビジネス戦略を実現するために設定した、業務プロセスをモニタリングする指標

**問24****工**

**クロスセクション法**：デルファイ法同様，未来予測技術の一つ．先行している事例から未来予測を行う．

**シナリオライティング法**：仮説を立て，それに従って予測される状況を記述する方法．

**親和図法**：KJ法に由来する，QC七つ道具の一つ．KJ法と同様，収集した情報を小さなカードに書き込み，それをグルーピングしてグループごとに見出しをつけて分類する．

**デルファイ法**：複数の専門家にある問題に関する推測をしてもらい，その結果を相互に参照して新たに意見を出してもらう．この作業を何回か繰り返し，意見を収斂させる手法．

**KJ法**：様々な情報を一つずつ小さなカードに書き出し，関係のあるカードをグルーピングする．それらをさらに中分類，大分類でまとめて，グループの構造を図解する．この作業の過程で問題の解決法や新しいアイデアを生み出していく手法．

**問25****ウ**

バランススコアカードは，経営マネジメントの手法である．企業のビジョンと戦略を実現するために，**財務**，**顧客**，**業務プロセス**，**人材教育**の四つの視点から，バランスよく企業の成長力と競争力を向上させることを目的とする．

ア：**SWOT**（Strengths Weaknesses Opportunities Threats）分析の説明である．

イ：**PDCA**（Plan Do Check Action）の説明である．

エ：**KGI**（Key Goal Indicator）や**KPI**（Key Performance Indicator）の説明である．